

新評論

2019

1

No.290

発行所 © 新評論 2019年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税抜



3.11後の黙示的的日常はいまだ続いている。
2012年6月29日官邸前反原発デモにて。

世界各地の抵抗の営みを巨大な射程で見つめ、「3.11」後を
生き抜く民衆の力を析出する。気鋭の歴史学者 待望の単著!

黙示録のエチュード

歴史的理性の復活のために(仮題)

マニエル・ヤン

◆ジャンル:歴史社会学/民衆史

わたしたちは、日々、「黙示」を生きている。
新約聖書の最終テキスト「ヨハネの黙示
録」が世界の終末を予言して以来、「黙示」
は人類破滅の啓示という意味を持つように
なった。

聖書の災いを彷彿させる地震と津波にく
わえ、怨霊のように生態系を蝕む原発由来
の放射能汚染をもたらした二〇一一年東日
本大震災は、まさにそのような「黙示的」
出来事だった。現在判明しているだけで一
万六〇〇〇人以上の死者、二五〇〇人以上
の行方不明者、最大時四七万人以上の避難
者／難民を生んだ大震災を歴史的に位置づ
けようとして、それを第二次世界大戦の戦
禍になぞらえた人たちがいた。四半世紀前
のチェルノブイリ原子力発電所事故を想起
する者もいた。第二次大戦は世界資本主義
の覇権をめぐる争いであり、チェルノブイ
リ原発事故はソ連の国家社会主義体制の破
滅を予示した。

では、「三・一一」はどのような争いを顕
在化し、なにを予示しているのか?

当時アメリカ中西部に住んでいたわたし
は震災の三か月後に日本を訪れ、以来、こ
の問いをさまざまな新しい出会いのなかで
考え続けてきた。本書はそうした思考と対
話の記録であり、黙示的日常を生きたこと
の意味を、資本主義分析や歴史社会学の想
像力によって問う試みである。

近年、核産業を含む資本主義文明が人類
の黙示的終末を加速させている状況を科学

的に認識する枠組みとして、「人新世」(An-
thropocene)という地質学的時代区分が普
及しつつある。その語源である「アントロ
セン」(Anthropocene)をアメリカの科学・環
境ジャーナリスト、アンドリュー・レヴキン
が「地球温暖化——その予測を理解する」の
中で初めて用いたのは一九九二年だ。同年

にトム・ウェイツは地球の生態的終末を黙
示的イメーজで歌った「ついに裁きの日が
来たぜ／ほれ、その充血したデカ目に泥を
塗って乾杯／火かき棒が炉につっこまれ、
イナゴの大量が空を覆う／そして地球は悲
鳴をあげながら死んだ、おれが横になって
おまえの夢を見てる間に」(「地球の断末
魔」)。環境の劇的变化による大量絶滅を予
示する現代科学の言葉が、世界の終わりを
予示する古代宗教のメタファーと交錯する。

世界の終焉を神の意志または科学的必然
としてあらわす「黙示」に圧倒され、無力
な存在になりにかねない時代をわたしたちは
生きている。死に行くなかでも叫び声をふ
り絞りながら生き延びるには、資本主義の
終わりを現実的に早める民衆の力や社会シ
ステムの矛盾を解明しなければならぬ。
本書は、そのために必要な歴史的理性の
「練習曲」集である。

「もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも
労苦もない。最初のものは過ぎ去ったから
である」(「ヨハネの黙示録」二二章四節)。

ISBN978-4-7948-1113-4 2月上旬刊
四六上製 予三三六頁 予三〇〇〇円

著者 Manuel YANG 現在、日本女子大学人間社会学部現代社会学科教員。専門は歴史社会学、民衆史。アメリカと環太平洋／大西洋の歴史を階級闘争の観点から研究。論考に「音楽労働者モンクは全体主義に『ノー』と言う」(『文藝別冊 セロニアス・モンク』河出書房新社)。



先生の使う言葉次第で、子どもたちの好奇心はふくらんだりしぼんだりする。

選ぶ言葉で授業が変わる！教室を根底から変革するには、まず教師から。教育観・社会観・人間観を刷新する画期的授業法！

オープニングマインド

子どもの心をひらく授業

ピーター・ジョンストン／吉田新一郎 訳

◆ジャンル：教育

教育について、いまや誰もが口をそろえてこんなふう言うようになりました。教育とは知識の量を問うことではなく、「他者と協力できる人、イノベーター（新しいものや考え方や仕組みを創りだせる人）、問題解決に長けた人、クリティカル（批判的）な思考ができる人」を育てることであるべきだ、と。けれども、具体的に何をどうすべきかが提示されることはごくまれです。本書では、そのような教育を実現するための理論と実践が極めて分かりやすく紹介されます。

まず授業を改革する上で最も重要な基盤として、教師が「言葉を選ぶ」ことの重要性が説かれます。たとえば先生が生徒に向かって「あなたがたがどれだけの単語を知っているか確認します」と言うのと、「あなたがたがすでにどれだけの単語を知っているか、見てみましょう」と言うのでは、大きな違いがあります。

前者には先生の「上から目線」が感じられ、教室の雰囲気は暗くなります。後者は子どもたちに自信をもたせるだけでなく、先生自身の意識をも変えていきます。

次に、主体性やチャレンジ精神を重視する「ダイナミック・マインドセット」の考え方が解説されます。現実の教室は、無力感と思考停止の「固定マインドセッ

ト」に支配されてしまっています。この現状を変えるには、小手先の授業技術ではだめで、世界とのかかわり方を変える必要があるのです。

本書にはほかに、「公正な社会と公正な教育」「不確実性と違い」「社会的想像力」「道徳的主体性」など、授業を根底から変えるための重要で興味深いキーワードがたくさん出てきます。読み終えた時には、授業とは教師ひとりが教えるものではなく、教師と生徒がともに自らの能力を開花させる場なのだということが、深く理解できるはずです。

授業を変えたいと願うすべての先生、教育の未来を憂慮するすべての方、そして本書の最後で説かれる「意味のある生活」をつくりだしたいと思っているすべての方に、ぜひ読んでいただければと思います。（よしだ・しんいちろう）

最高の授業

「スバイター討論が教室を変える」

二五〇〇円

A・ウイギズ／吉田新一郎訳

「クラスも教師も自立する『質問づくり』」

二四〇〇円

D・ロスタウ／サンタナ／吉田新一郎訳

二四〇〇円

「責任の移行モデルで授業が変わる」

二四〇〇円

好評刊

著者 Peter JOHNSTON ニュージーランドで小学校教諭を務めたあと、アメリカ・イリノイ大学大学院で博士号を取得。現在はニューヨーク州立大学名誉教授。家族と研究以外の楽しみは、サッカー、歌うこと、冗談を言うこと、白ワインを飲むこと。

過去は未来を開く扉——ある日、科学記者の耳に届いた着信音。
リアルな設定で人類と人工知能の関わりを問う刺激に満ちた創作。

リングトーン

未来からのメッセージ

塩田良平

◆ジャンル:近未来小説/SF

世の中には、まさにAI(人工知能)ブームである。AIが組み込まれた家電をネット通販店で買えば、通販店サイトのAIが作動して関連商品の宣伝メールが嫌というほど送られてくる時代。便利ではあるが、「鬱陶しい」というのも事実だ。さまざまな二律背反をはらむAIは、人類の味方なのだろうか、それとも敵なの

だろうか。

物語の主人公である悠木翔は、科学記者としてAIやロボットといった最先端技術の取材に明け暮れている。AIは労働力不足を補うツールとして期待される反面、人間から仕事を奪うのではと危惧されるわけだが、悠木はAIの進化が人類を豊かにすると信じている。そんな悠木に、突然、未来から電話がかかってきた。二〇〇年先の未来社会では、人間は仕事と生きがいをなくし、希死念慮にとりつかれているという。

一方、悠木の生きる現代社会では、人手不足から過重労働を強いられ、自死を選ぶ労働者が後を絶たない。この危機的状況を改善する手段として、AIによる労働力の代替が期待されているのだ。つまりAIは人類の「救世主」となるはずなのに、なぜ——このギャップが、悠木を苦しめることになる。

科学技術は予想を超えたスピードで(指数関数的に)進化している。実はその進化のなかに、未来の人間を破壊するウイルスが仕組まれているのだ。二一世紀

人である悠木は、未来人との接触を通じてAIをめぐる葛藤と闘うが、彼は悲惨な未来社会を垣間見てもなお、はつきりとした答えを見いだすことができない。

アメリカの思想家であり、AI研究者であるレイ・カーツワイルは「シンギュラリティ」(特異点)という概念を用いて、二〇四五年にAIは人知を超えると予言している。問題は、この予言が当たるか否かではない。AIの進化に組み込まれた「破壊因子」に我々はどうか対処すべきなのか、そこが問われているのだ。悠木にも、その答えは見つからない。あなたは本書に鳴り響く着信音をたよりに、その答えを出すことができるだろうか。(しおた・りょうへい)

ISBN 978-4-7948-1112-7

1月刊

四六並製 二八八頁 予一八〇〇円

◆レロリーノ/島津やよい 訳

ギヴァー 記憶を注ぐ者

ギャザリング・ブルー 青を蒐める者

メッセンジャー 緑の森の使者

近未来小説4部作
ある子ども

各一五〇〇円
二四〇〇円

著者 1950年長野県生まれ。1974年4月時事通信社入社。経済記者として財政、金融、マーケットなどを担当。2012年6月編集担当を最後に退社、13年からフリーとなり、主に経済関係の記事を執筆。本名は松崎秀樹。

議論と翻訳

桑田禮彰

〔明治維新时期における知的環境の構築〕
私たちの議論姿勢と異文化感覚を支える議論Ⅱ翻訳環境は、明治維新时期に初めて構築された。そのプロセスを徹底解明し、現代の危機的な議論環境を逆照射。

ISBN978-4-7948-1110-3 1月刊

四六並製 予五八〇頁 予四八〇〇円

著者 一九一四年、東京生まれ。一橋大学大学院博士課程修了。現在、駒澤大学教授。専攻「フランス思想・哲学」。著書「フーコーの系譜学」講談社選書メデウス、「マニレヘールガルスピンザカ（共訳）新評議他。

屈服しない人々

T・トドロフ／小野 潮訳

憎悪なき不服従への道。N・マンデラ他、戦争・全体主義・人種／民族差別に抗い続けた八名の人生。四六並製 三二二頁 二七〇〇円

『週刊金曜日』紹介

ISBN978-4-7948-1103-5



憎しみなき抵抗
私たちはどうして屈しない人々に倣えるべきか
「知れざる屈しない人々に倣え」
—ツツ・ランド・コッパ—

オランダ公共図書館の挑戦

吉田右子

「サービスを有料にするのはなぜか？」 えっ、公共図書館が有料？！
実はそれには深い理由があった。

四六上製 二七二頁 カラー 二五〇〇円

『読売新聞』他紹介
ISBN978-4-7948-1102-8

えっ！ 公共図書館が有料？
そこには深い理由があった
図書館カードさえあれば社会とつながれる
図書館カードとあるオランダ公共図書館の挑戦

乙女たちが愛した抒情家 落谷虹児

鈴木義昭

魯迅、三島由紀夫、美輪明宏、黒柳徹子、瀬戸内寂聴も愛した大正・昭和少女文化のスター、乙女心の永遠の理解者の生涯。四六上製 二七二頁 カラー 二二〇〇円

『日刊ゲンダイ』書評
ISBN978-4-7948-1104-2

オトメゴコロの永遠の理解者
夢とリアルに揺られ、夢とリアルに愛された
ある「落谷虹児」の生涯と、その生涯に
その生涯に愛した乙女たちの物語（著者）
その生涯に愛した乙女たちの物語（著者）
その生涯に愛した乙女たちの物語（著者）

ブラボー！ 大雪山

写真文…大塚友記憲／写真文化首都写真の町東川町編

四季折々の美しく雄大な自然を堪能できるだけでなく、大雪山と「写真の町」への旅のガイドとしても役立つ写真文集。

B5並製 二〇〇頁 カラー 三〇〇〇円

『北海道新聞』紹介
ISBN978-4-7948-1096-0

四季折々の美しく雄大な自然を堪能できるだけでなく、大雪山と「写真の町」への旅のガイドとしても役立つ写真文集。

猫たちとニューヨーク散歩

画：久下貴史／文：ジャパンエース株式会社

「久下貴史作品集2」「マンハッタンズ」で著名な画家と猫たちの温もり溢れるNYほのぼのの生活。B5並製 二〇〇頁 三八〇〇円

『日刊ゲンダイ』書評
ISBN978-4-7948-1100-4

猫たちとニューヨーク散歩
久下貴史作品集2
マンハッタンズ
画家と猫たちの、温もり溢れるニューヨーク便り

野球母ちゃん

神川靖子／協力…池谷弘子

「そのパワー侮るなけれ」 野球少年を子にもつ母たちの泣き笑いの日々。感動・爆笑必至のドキュメンタリー！

四六並製 二四〇頁 一八〇〇円

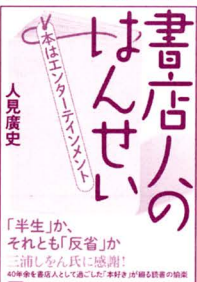
『中日新聞』紹介
ISBN978-4-7948-1108-0

感動・爆笑必至のドキュメンタリー！
「そのパワー侮るなけれ」 野球少年を子にもつ母たちの泣き笑いの日々。感動・爆笑必至のドキュメンタリー！

書店人のはんせい

人見廣史

「本はエンターテインメント」「半生」か、「反省」か——40年余を書店人として過ごした「本好き」が綴る読書の愉楽。四六並製 二五六頁 二〇〇〇円

『毎日新聞』他紹介
ISBN978-4-7948-1101-1

「半生」か、それとも「反省」か
「書店人」をんきに感謝！
「書店人」をんきに感謝！
「書店人」をんきに感謝！

好評刊

ISBN978-4-7948-1105-9



『住まいと人づくりの文化史』「北欧スタイル」の源流をたどり、住まいが人間と社会に与える影響を考える。

四六並製 三二六頁 二八〇〇円

スウェーデン・デザインと福祉国家
太田美幸

好評刊

ISBN978-4-7948-1106-6



『ニルススのふしぎな旅』と日本人
村山朝子
「スウェーデンの地理読本は何を伝えてきたのか」 初邦訳から一〇〇年、世界中で愛されてきた魅力に迫る。

四六上製 三〇〇頁 二五〇〇円

「久米宏ラジオなんですけど」紹介
ISBN978-4-7948-1056-4



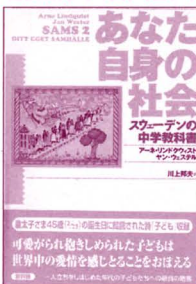
「日本の大学生は何を感じたのか」投票率85・8%の国では、小学校社会科で何を教えているのか？

四六並製 二八〇頁 一八〇〇円

スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む
ヨラン・スベネリッド / 明治大学国際日本学部教授 木下 編訳

最新18刷出来！

ISBN978-4-7948-0291-0



「スウェーデンの中学教科書」高橋源一郎氏絶賛！「教科書を読んで勇氣をもらえるなんて！」

A5並製 二二四頁 二二〇〇円

あなた自身の社会
高橋源一郎

最新刊

ISBN978-4-7948-1109-7



「アジアにおける経済のグローバル化」激動のアジア経済を地理的・空間的に読み解く画期的入門書。

四六上製 二四四頁 二四〇〇円

国際産業立地論への招待
鈴木洋太郎

『朝日新聞』紹介

ISBN978-4-7948-1085-4



「誰も置き去りにしない」公正と共生のまちづくり」理論と先駆例を紹介する世界初の入門書。

四六並製 三三〇頁 二五〇〇円

フェアトレードタウン
渡辺龍也

2刷出来
ISBN978-4-7948-1031-1



「受験でも人間関係でも要となる人生の4つのキーン」こっすん直伝、AO推薦入試のコツ満載！

A5並製 一八四頁 一五〇〇円

AO・推薦入試の黄本
小杉樹彦

20代で身につけたい働き方の基本
小杉樹彦
「君がいてよかった」と言われる仕事のルール」三〇〇人以上の若者のキャリア支援をしてきたこっすんが、「よい仕事をしたい」と願うすべての人におくる就職心得読本！

ISBN978-4-7948-1111-0 近刊

四六並製 二〇八頁 一五〇〇円

著者 株式会社Brain New World 代表取締役 CEO / 上武大学ビジネス情報学部助教 教育評論家としてNHK、日経BPなどTVから雑誌まで幅広いメディアで活躍中。

戸川幸夫著 田中豊美画／戸川久美解説 『新装合本 牙王物語』

「動物文学の最高峰」現在に

■『毎日新聞』2018年11月14日付夕刊

アイヌの人々が「カムイミンタラ」（神々の遊ぶ庭）と呼んで美しさをたたえた北海道大雪山連峰を舞台に、オオカミと狼犬の混血犬キバを主人公にした戸川幸夫（1912～2004年）の本紙連載小説「山のキバ王」（56年12月～57年12月）が完結してから60年余になる。『牙王物語』と改題し、角川書店、講談社など複数の版元が刊行してきたが、新装版が今月、新評論（東京・西早稲田）から復刻された。長く読み継がれてきた「動物文学の最高峰」を改めてひととくと、現代社会に通じるテーマが息づいていた。

戸川は犬の動物好きで、旧制山形高時代にはニホンオオカミ残存説を信じて山村を歩き回ったという。そうした経験を生かして、毎日新聞記者時代に書いた初的小説「高安犬物語」が直木賞（54年下期）を受賞し、43歳で作家生活に入った。

「この人がこれから書くであろう一連の動物を扱った作品は、大衆文学に新風を吹き込むものとして、期待している」と信ずる。選考委員の村上元三が看破した通り、その後多くの動物小説を発表し、「動物文学」をジャンルとして確立。さらに従軍体験を生かした戦記ものや伝記、時代小説、児童文学など幅広い作風を誇った。後年にはイリオモテヤマネコを発見したことも知られる。

物語は、大雪山のふもとにやってきた東京のサーカス団からヨーロッパオオカミが脱走する場面から始まる。オオカミは山中で、アイヌの猟師が飼う狼犬と出会い、5匹の子を産む。作者は、最も賢く長く鋭い牙を持った子に「キバ」と名付けた。「片目のゴン」と恐れられるヒグマに遭遇したキバは、天人峡の大絶壁に飛び込み危うく難を逃れる。道内最大の瀑布「羽衣の滝」で息も絶え絶えになって

いたところを、地元・東川の牧場の娘早苗に助けられ、彼女の愛に育まれて傷を癒やすが、やがて野生の血が騒ぎ始める――。

現地取材を重ねた戸川は連載前の抱負で「山頂から見渡す大雪山はまさに「白き神々の座」だった。私はこんど、この天地を舞台にベンを走らせてみたいと願った。出来る、出来ないは別としてこの雄大な大自然が私の血を激しくかき立て力づけてくれたからにはかならない（北海道版56年11月30日付）と記した。

『毎日新聞』他紹介
ISBN978-4-7948-1107-3

新装合本
戸川幸夫著／田中豊美画／戸川久美解説
大雪山連峰を舞台に繰り広げられる自然、動物・人間の壮大な物語。よみがえった動物文学の最高峰。
四六並製 三六八頁 一八〇〇円

「ガジン」連載や、テレビアニメにもなった。

少年時代に漫画「牙王」に親しんだという新評論の武市一幸社長は「60年以上前の作品であるにもかかわらず、自然との共生、動物愛護、人間関係のあり方などは現代に通じる。ぜひ幅広い世代に読んでもらいたい」と復刻の狙いを語る。

今回解説を寄せた戸川の次女で、NPO法人トラ・ゾウ保護基金理事長を務める久美さんは「父が生涯大切にした生き方が投影されている」と言う。挿画は動物画の第一人者、田中豊美氏が担当。（中澤雄大）

本を売る

本屋は本屋

ご無沙汰しております、この三省堂書店神保町本店に転職してから、3月で2年が過ぎようとしています。神保町2丁目から1丁目1番地に移動しただけに、見える景色は随分と変わりました。初めは何より、新刊チェックや買い物が週3回はウロウロしていた店で自分が働くことになるなんて：っていうのが一番の驚きだったかもしれません。

70坪もない街の本屋から、全フロア合計1000坪以上の店に移って、一番の変化は毎日1万歩以上歩くようになったことかも。そして、繋がりがなく、繋がっている複数のジャンルが同じフロアに混在していることに最初は戸惑いました。だって、楽譜や将棋、書道、スポーツの本に関する問いがあわせて対応しなければならぬ日があるなんて！以前の職場だったら、「三省堂さんにありますよ」で済ませていたところです。それがいまや、「三省堂になら多分あるだろう！」という漠然とし

た期待で全国のお客様から問い合わせが来たりして、毎日があつという間に過ぎていきます。ほかに「大型店あるある」的なカルチャーショックがいろいろと——早番、遅番って？常備カードを回してもいないのに注文できちゃう「自動発注」ってどういうこと？短冊で注文しないの？売上カード、数えないの？取次店で直接仕入れないの？……などなど。そうこうしているうちに売り上げカード廃止の動きが始めたりと、日々の変化が目まぐるしいです。本屋という同じ職種でも、一日の仕事の流れがこんなにも違うことに愕然としました。振り返らなければいけないのに、振り向くこともままならず毎日通り過ぎていきます。

制服も、いまだに慣れないものの一つです。私服姿の私しか知らない版元の営業の方やお客様からは爆笑されました。それでも、本屋は本屋。前の店のお客様がレジの向こうから手を振ってくれたり、店内で声をかけてくれるのを励みにしながら、奮闘の毎日です。三省堂書店神保町本店 白井潤子

本誌表示価格はすべて税抜です。

書評日誌(11・3～11・24)

書書評 紹紹介 関関連記事

- 11・3 ⑥西日本新聞『書店人のはんせい』
- 11・8 ⑥印刷新報『書店人のはんせい』
- 11・9 ⑥山形新聞『農工調和の地方田園都市』
- 11・10 ⑥毎日新聞(西部版・夕刊)『写真記録』これが公害だ』
- 11・14 ⑥毎日新聞(夕刊)『新装合本 牙王物語』※「デジタルプラス」にて詳報と動画
- 11・15 ⑥デーリー東北『書店人のはんせい』
- 11・18 ⑥北日本新聞『オランダ公共図書館の挑戦』(岡本 真)
- 11・20 ⑥中日新聞(しずおか版)『野球母ちゃん』
- 11・24 ⑥聖教新聞『屈服しない人々』(平)

- 11/中 ⑥出版ニュース『書店人のはんせい』
- 12月号 ⑥実話ナックルズ『乙女たちが愛した抒情画家 落谷虹児』
- 2019年冬号 ⑥猫ぐらし『猫たちとニューヨーク散歩』

11月の増刷

2刷出来

ISBN978-4-7948-0955-1



アエネーイス
 ウエルギリウス／杉本正俊訳
 知名度に比して未だ十全に味読されていないラテン文学の最高傑作を「われわれの古典とすべく、その無比の味わいを再現する新訳の挑戦。」
 A5上製 四八四頁 五五〇〇円

本を読む

書店人のはんせい

著者・人見さんの、本へのあふれる思いが伝わってくる内容でした。「やりたいこともできずに、うんざりしている」という人間にはなりたくない」(P.90)という言葉に励まされました。私も「やらないで後悔するより、やって後悔した方がよい」と思って生活しています。三浦しんさんの「舟を編む」を紹介するくだり、「ぬめり感」を押しているところに同感します。何度でも読み返したい作品です。(小平市 団体職員 依田浩司 43歳)

写真記録 関門港の女沖仲仕たち

日本の近代化の歴史の中に、意気ある女たちの仕事(労働)を位置づける興味深い内容。体ではなく脳味噌を使う仕事の方が上のようになす現代の労働観を再考させる面も。私も看護師として、体も心(脳)も使いながら70歳でいまだ現役なので、プロとして大いに力づけられる。「こんな生き方もある(あった)」という歴史の証

言。生きるために就く仕事、それがいかに過酷であろうと自分の選んだ道であって、人がとやかく言うことではない。そんな思いを強くした。(大分市 看護師 荒木久恵 72歳)

越境と抵抗

44歳で世を去った民俗学者・小川徹太郎さんの論文や未発表原稿を集めたもの。フィールドとして海・漁村を選んだところが興味深い。民俗学の未来を考える上でも重要な文集だと思います。私もこのような視点を持ち、研究がしたいと強く思わせてくれた大切な本です。この本に収録されなかった小川さんのほかの文章も公刊されることを願います。(京都市 大学生 狩生宗彦 22歳)

好評刊

写真記録 関門港の女沖仲仕たち

〔近代北九州の一風景〕
林えいたし
二〇〇〇円

越境と抵抗

〔海のフィールドワーク再考〕
小川徹太郎
二八〇〇円

増補版 作家の時間

〔書くことが好きになる教養学方・方案実践編〕
プロシエクトワークショップ編
二二〇〇円

編集部から

歴史を見はるかす射程は極大、資本主義・権威主義を指弾する筆鋒は犀利、民衆の思いや力を汲む感度は最高。マニエル・ヤン氏が各所で発表する文章を読むたび、歴史の最深处に降下する興奮、世界の見え方が変わる快哉を味わってきた。それらを『黙示録のエチユード』と題して一冊の本にする夢が共に叶う。願わくは読者の方々と共有し、夢の続きを見た。盟友・酒井隆史氏や栗原康氏との対談も収載。全国の教員のみなさま、教室変革の最良の導き手・吉田新一郎氏の最新訳書をお届けします! 新刊『オーブニングマインド』、今回も発想の転換を促すヒントが満載です。同著者の『言葉を選ぶ、授業が変わる!』(吉田氏他訳、ミネルヴァ書房)との併読をお勧めします。

営業部から

▼直近3ヶ月のアマゾンでの弊社書籍売上ベスト15をご紹介します。

- ①あなた自身の社会
- ②たった一つを変えるだけ
- ③成績をハックする
- ④スウェーデンの
- ⑤書店人のはんせい
- ⑥AO・推薦入試の黄本
- ⑦オランダ公共図書館の挑戦
- ⑧「学びの責任」は誰にあるのか
- ⑨最高の授業
- ⑩スウェーデンに学ぶ
- ⑪虚構の「近代」
- ⑫ギヴァー 記憶を注ぐ者
- ⑬2018年度版 新・受験技法
- ⑭算数・数学はアートだ!
- ⑮増補版「考える力」はこうしてつける

SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

当クラブ(九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的にご送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。

ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メールまたはハガキにてお名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。